

≫ 意のままを行いて、^{のり}矩を超えず (孔子) ‹‹

‹‹ K領域 = 関わり方・自我の形成・内なる我慢・外への我慢・有能感・有用感・自己肯定感 の育成 ››

K01：構音への自信

K02：ゲームに負けて泣く・欲しいものが貰えないと大泣き・大暴れ 等々への対処

「心が強くなったの」

K03：シールを探すのに時間がかかる

K04：✖バツに弱い ⇒ 強い子へ

K05：消極的な態度 ⇒ 積極的な子へ

K06：集中しないときの対応

K07：本人は「揚げ足をとったつもり」「指導者をからかうような発言」「素直な疑問を言ったつもり」等への対応

K08：ネガティブな発言や自信のない様子に対する対応 ⇒ 次回張り切ってポジティブに通室させるために！

K09：

K10：

〔A：構音〕K領域の指導の場のレパートリー

機能構音障害に於いては、構音の誤りに一喜一憂するのは止めましょう！ 指導(治療)の本質は、そこにはないのですから !!

- 側音化構音であっても、**構音が直った上に、明るくなってお友達もできた。教室で手を挙げるようになった。**
- 側音化構音であっても、**構音が直ったばかりか、私(母親)の話(悩み)も聞いてもらえた。**
- ✖ 側音化構音は直らなかつたけど、私(母親)の話(悩み)を聞いてもらったり、色々相談できたので通って良かった。

A00 『まねっこが楽しい・自信がある・もっと〜〜がしたい』となる指導 = K01

A01 構音検査 等

A02 ×を○に自己修正

A03 「○を×に自己修正」「○と×の混乱と修正」

A04

A05 バラ丸の威力・花丸10個で×が1個花丸に「へんし〜ん」

A06 鬼滅の刃から：「ことばの心」⇒「舌の型(学校の勉強のポーズ)」「舌の型(花丸ポーズ)」

A07 ○○(シール絵)をつくろう 【戒め！ 頼りすぎない！】

A08 表記による構音の違い

A09 段階() = 「音づくり」への導入 【模倣の約束事の確認】

A10 段階() = 構音運動を想起できない構音運動の模倣 【音づくり=変な音と口のまねっこ(低年齢児への名称)】

A11 段階() = 目的音にやや近い構音運動の模倣から≪単音・単音節≫へ さらに、≪続けて言える≫へ

A12 段階() = 例えば、[tʃ] や [tʃi] の表記から「ち」の表記での模倣へ 【意味化】

A13 段階() 音節⇒単語⇒句・文⇒会話的表現で 2023講座：[tʃi・ʃi]系、[ki・ke・kj]系の構音指導の視聴

A14 まねっこゲーム A：まねっこゲーム(双六・トランプ) B：まねっこゲーム(X3個で負け)

A15

A16 耳の訓練 A：聞き出し B：異同弁別 C：正誤弁別

A17 記憶力・語音認知等々への指導

A18 リズム打ち

A19 家での練習 ※ 練習可能な条件：① 誤りの指摘を受けると即座に自己修正ができる ② 練習やゲーム中でも自己修正ができる

A20 終了判断 A：色々な姿勢で B：笑わせる C：早口で D：前歯を軽く噛み合わせたまま E： 2023講座視聴

戒め！ 模倣させて、50回バツになったら、それは、バツの練習を50回行ったことになる！

勧め！ 指導対象児・者の模倣能力に応じた模倣内容を想像し、創造できれば、バツは極力減らすことができる！